

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	23-097	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
The relationship between physical performance and alcohol consumption levels in Russian adults ロシア成人における身体パフォーマンスとアルコール消費レベルとの関連		
執筆者		
Mitkin NA, Kirilkin GE, Unguryanu TN, Malyutina S, Cook S, Kudryavtsev AV.		
掲載誌		
Sci Rep. 2024 Jan 16;14(1):1417. doi: 10.1038/s41598-024-51962-3.		
キーワード	PMID	
飲酒習慣、身体パフォーマンス、横断研究	38228702	
要 旨		
<p>目的: 多様な社会経済的・飲酒習慣における身体パフォーマンスへのアルコールの影響の差異に関する知見は乏しく、健康的な高齢期を推進することは公衆衛生上の優先事項である。本研究はアルコール消費と身体パフォーマンスの関連を評価した。</p> <p>方法: ロシアのアルハンゲリスクおよびノボシビルスクの 35-69 歳の 4215 人 (女性 58.3%) を対象に、2015-2018 年の「Know Your Heart」研究のデータを使用した。参加者の飲酒状態は自己報告に基づく飲酒行動で、非飲酒、問題のない飲酒、危険な飲酒、有害な飲酒のカテゴリに分類した。身体パフォーマンスの評価は、握力、閉眼バランス立ち、椅子立ち上がりテストの結果と、3 種を組み合わせた 0-12 点の総合身体パフォーマンススケール (CPPS) を開発して評価した。アルコール消費と CPPS スコアの関連を評価するために多変量線形回帰分析、アルコール消費と 3 種の機能テストとの関連は順序ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>結果: 非飲酒群は男性 13.3%、女性 10.5%、問題ない飲酒群は男性 54.4%、女性 83.8%、危険飲酒群は男性 23.9%、女性 5.2%、有害飲酒群は男性 8.5%、女性 0.5%であった。有害飲酒群は問題ない飲酒群に比べて調整済み CPPS スコアが低値を示した (男性: -0.73, 95% CI: -1.13; -0.33, 女性: -1.53, 95% CI: -2.71; -0.34)。男性の有害飲酒群では、握力、閉眼バランス立ち、椅子立ち上がりテストすべてのスコアが低く CPPS スコアが低かった。女性の有害飲酒群では特に握力のスコアが低かった。また非飲酒群も CPPS 低値が有意に低値を示し、男性では握力と椅子立ち上がりのスコアが低く、女性では握力のスコアのみが低かった。</p> <p>結論: 問題ない飲酒群に比べて、非飲酒および有害飲酒群の身体パフォーマンスが低下していることが示唆された。</p>		